

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：村山 一弥

事業名 一般国道19号 <small>まつもと</small> 松本拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点 白) <small>ながのけんまつもととしなぎさ</small> 長野県松本市渚 至) <small>ながのけんまつもととしみやぶちほんむら</small> 長野県松本市宮渚本村				延長 1.6km
事業概要 一般国道19号は、名古屋市を起点に、多治見市、木曾福島町、塩尻市、松本市を経て長野市に至る長野県と中部圏とを連結する全長約270kmの主要幹線道路である。松本拡幅は、国道19号の交通混雑の緩和及び交通安全の確保、地域の活性化の支援を目的として計画された事業である。				
H10年度事業化		H9年度都市計画決定		H17年度用地着手
H23年度工事着手				
全体事業費		約170億円	事業進捗率	36%
計画交通量		23,000~40,000台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 96/160億円 (事業費: 90/154億円) (維持管理費: 6.0/6.0億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 284/284億円 (走行時間短縮便益: 243/243億円) (走行費用減少便益: 30/30億円) (交通事故減少便益: 11/11億円)
	(残事業)	3.0		
感度分析の結果 【事業全体】交通量 : B/C=1.8~1.8 (交通量 ±10%) 【残事業】交通量 : B/C=2.9~2.9 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.6~1.9 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C=2.7~3.2 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.6~1.9 (事業期間±20%) 事業期間 : B/C=2.7~3.1 (事業期間±20%)				
事業の効果等 ①交通混雑の緩和、交通事故の減少 ・国道19号松本拡幅区間は、主要渋滞箇所である渚1丁目交差点、白板交差点を先頭に交通混雑が発生。 ・事故類型別事故発生状況では、車両相互の追突事故が区間全体の約7割発生。 ・松本拡幅の整備により、交通の円滑化が図られ、交通混雑の緩和、交通事故の減少が期待。 ②地域活性化の支援（観光） ・国道19号周辺は、国宝松本城などの長野県を代表する観光地を有しており、特に松本城の観光客数約99万人と近年増加傾向。 ・松本城の観光客は、約9割が県外観光客であり、長野県内の移動手段は自家用車が約8割。 ③地域活性化の支援（道路整備支援） ・松本拡幅は、松本市第5次道路整備五箇年計画に位置付けられている内環状線の一部を形成。 ・松本拡幅の整備により、松本市の骨格となる幹線道路の早期整備を促進。				
関係する地方公共団体等の意見 ・長野県知事からの意見： 一般国道19号は、本県および国土の骨格となる重要な道路であり、「松本拡幅」の整備により、地域における交通の安全・円滑化、観光の振興が図られ、本県の活性化にもつながるものと期待しております。ついては、事業を継続し、積極的な予算確保と早期完成に向けた事業の推進を強く要請します。				
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成24年10月に塩尻北拡幅が完了し、平成28年3月に渚1丁目交差点が暫定供用するなど、周辺道路の整備が推進されている。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成17年度より用地買収に着手し、平成29年3月末現在で用地取得率32%。 主要渋滞箇所である渚1丁目交差点付近を優先的に着手し、平成27年度に暫定供用を図った。 今後、残る白板交差点の用地買収を進める予定。 立体部については、4車線整備完了後、交通状況を見ながら立体化を行う。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後、残る白板交差点の用地買収を進める予定。				

立体部については、4車線整備完了後、交通状況を見ながら立体化を行う。

施設の構造や工法の変更等

新技術の積極的な活用等により、コスト縮減に取り組む。

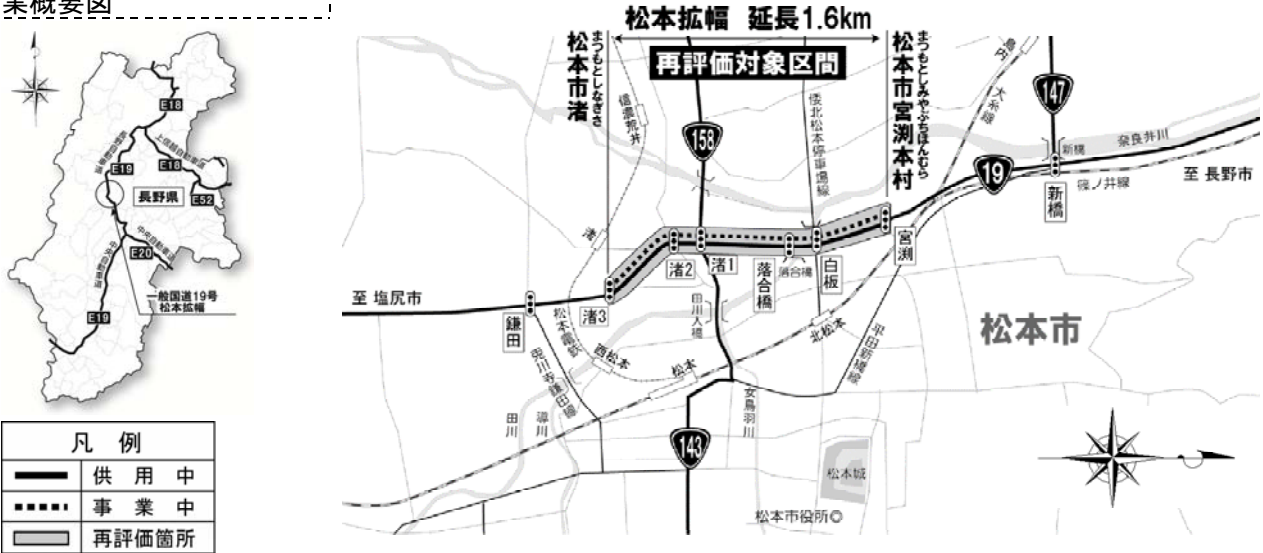
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

松本拡幅の整備は、交通混雑の緩和、交通安全の確保、地域活性化の支援（観光）等の観点からも、整備の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切である。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。